ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(3)

高校生を対象としたモバイル調査におけるネットいじめ加害行動経験率の単純集計

○鈴木佳苗[1]・熊崎あゆち[2]・櫃淵めぐみ[1]・堀内由樹子[2]・桂瑠以[2]・坂元章[2]

([1]筑波大学・[2]お茶の水女子大学)

キーワード：ネットいじめの加害行動経験，高校生，モバイル調査

The effects of Internet use among high school students with cyberbullying experiences (3):

Simple statistics of cyberbullying experience rates in a two-wave mobile phone panel survey

KanaeSUZUKI[1], Ayuchi KUMAZAKI[2], Megumi KASHIBUCHI[1], Yukiko HURIUCHI[2], Rui KATSURA[2] and Akira SAKAMOTO[2]

([1]University of Tsukuba, [2]Ochanomizu University)

Key Words: cyberbullying experiences, high school students, mobile phone panel survey

目　的

近年、ネットいじめの問題が注目されており、ネットいじめを悪化させるネット利用のあり方や有効な介入方法の検討が求められている。しかし、1か月間のネットいじめの加害行動経験率自体は低く（鈴木ら, 2011）、一般サンプルを対象とする調査はネット利用がネットいじめの加害行動に及ぼす影響の実態を捉えるには有効であるが、要因間の影響関係を検出しにくい可能性がある。そこで本研究では、ネットいじめの加害経験者を対象として2時点のパネル調査を実施する。一連発表の(3)では、1回目調査と2回目調査のネットいじめの加害行動経験率を報告する。

方　法

調査対象者　携帯サイト上での調査協力の呼びかけに応じた高校生27,375名を対象にネットいじめ加害経験によるスクリーニングを実施した。小野・斎藤（2008）をもとに作成された加害行動10項目（鈴木ら, 2011）について、「この1か月間に、携帯電話からのネット利用において、同じ学校の人との間にくりかえし意図的に行った経験」の有無を尋ね、1項目でも経験があると回答した高校生1,701名（男子817名，女子884名; 1回目調査時の平均年齢16.64 歳, *SD*＝.92）を1回目調査の対象者とした。1回目調査の対象者のうち2回目調査にも協力を得た607名（男子258名，女子349名; 2回目調査時の平均年齢16.99歳, *SD*＝.84）を分析対象者とした。

調査内容　ネットいじめ加害行動　1回目調査では、スクリーニングに使用した10項目を本調査項目としても用いた。2回目調査では、1回目と同様の10項目を用いた。

手続き　モバイル調査はネットエイジア株式会社に委託し、1回目調査を2011 年10 月、2回目調査を2012年2月に実施した。

結　果　と　考　察

表 1 に、ネットいじめ加害行動率を全体、男女別に示した。全体的に 1 回目調査よりも 2 回目調査のほうがネットいじめ加害行動経験率が低く、平均への回帰の傾向が見られた。このような傾向は、「1) ネット上で、同じ学校の人をからかった」、「2) メール(パソコンや携帯電話)で、同じ学校の人に悪口を送信した」、「7) 同じ学校の一人にだけメールを送らなかった」において特に見られた。一方、「3) ネット上で、同じ学校の人に、危ない目にあわせると言った」、「8) 同じ学校の人が身体的、精神的に傷つくようなことをされているシーンを撮影し、ネット上に掲載した」といったより悪質なものや、ネット上への書き込みに関する加害行動の経験率は 2 回の調査間で大きくは変わらなかった。

ネットいじめの加害行動経験の性差については、10 項目中 6 項目（表 1 の 3), 4), 5) 6), 8), 9)）で、2 回の調査を通じて男子のほうが女子よりもネットいじめ加害行動経験率が高いことが示された。

引用文献

小野淳・斎藤富由起(2008). 「サイバー型いじめ」(Cyber Bullying)の理解と対応に関する教育心理学的展望. 千里金蘭大学紀要, 35-47.

鈴木佳苗・熊崎(山岡)あゆち・桂(赤坂)瑠以・坂元章・櫃淵めぐみ(2011). 日本におけるネットいじめの現状と対策(1) －小学生・中学生・高校生を対象とした加害行動の実態調査－日本教育工学会第 27 回全国大会(首都大学東京)講演論文集, 445-446.

註）本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた。また、本研究は最先端・次世代研究開発支援プログラム「ネットいじめ研究の新展開－「行動する傍観者」を生み出すプログラム－」（代表：鈴木佳苗）の助成を受けている。

表 1　ネットいじめ加害行動経験率(%)

	全体		男子		女子	
	T1	T2	T1	T2	T1	T2
1）ネット上で、同じ学校の人をからかった	38.7	18.6	39.9	22.1	37.8	16.0
2）メール(パソコンや携帯電話)で、同じ学校の人に悪口を送信した	41.7	15.8	37.6	18.2	44.7	14.0
3）ネット上で、同じ学校の人に、危ない目にあわせると言った	7.4	6.1	10.5	10.5	5.2	2.9
4）ネット上に、同じ学校の人の事実とは異なる情報を書きこんだ	12.0	7.7	15.1	12.0	9.7	4.6
5）ネット上で、同じ学校の人になりすまして、その人が困るような情報を書きこんだ	6.1	5.8	9.7	8.5	3.4	3.7
6）ネット上で、同じ学校の人の住所や電話番号の情報を、特に許可を得ずに掲載した	5.6	5.6	9.3	8.9	2.9	3.2
7）同じ学校の一人にだけメールを送らなかった	33.8	9.1	34.9	12.4	33.0	6.6
8）同じ学校の人が身体的、精神的に傷つくようなことをされているシーンを撮影し、ネット上に掲載した	5.4	5.3	8.9	9.3	2.9	2.3
9）ネット上で、同じ学校の仲間に、「A さん(同じ学校の人)に話しかけないようにしよう」などと呼びかけた	8.2	5.1	12.0	8.1	5.4	2.9
10）ネット上で、同じ学校の仲間に、「B さん(同じ学校の人)を友だちリストからはずそう」などと呼びかけた	7.2	5.6	9.7	14.3	5.4	7.7

註：T1 は 1 回目調査、T2 は 2 回目調査を表す。